

平成 17 年 4 月 6 日

福島第二原子力発電所 3 号機の制御棒駆動機構ハウジング等における  
ひびらしきものの調査結果について

当所 3 号機（沸騰水型、定格出力 110 万キロワット）は、平成 16 年 12 月 2 日より第 13 回定期検査中ですが、平成 17 年 2 月 16 日から実施している制御棒駆動機構ハウジング\*<sup>1</sup>スタブチューブ\*<sup>2</sup>の溶接部の応力改善作業\*<sup>3</sup>において、水中カメラによる目視点検を実施していたところ、制御棒駆動機構ハウジング 2 本にひびらしきものを確認いたしました。（2 月 23 日、3 月 10 日お知らせ済み）

また、3 月 19 日、中性子計測ハウジング\*<sup>4</sup> 1 本に線状の様子が確認されたため詳細に調査した結果、建設当初よりあると思われる表面のみの線状の傷跡であると判断いたしました。（3 月 22 日お知らせ済み）

当該制御棒駆動機構ハウジング 2 本のひびらしきものについて調査した結果、磨き装置により当該部表面のクラッド\*<sup>5</sup>を除去し再度目視点検を実施したところ、ひびではなかったことが確認されました。これは、建設時以降蓄積されたクラッドによる様子がひびに見えたものと推定いたしました。

また、中性子計測ハウジング 1 本に確認された線状の傷跡について評価した結果、傷の特徴である傷底部および傷周辺の盛り上がり等が確認されたことから、建設当初よりある表面のみの線状の傷跡であると推定いたしました。

なお、先にお知らせしたとおり、予定していた制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブの溶接部および中性子計測ハウジングの溶接部の目視点検は 3 月 19 日までにすべて終了しており、他にひびらしきものの存在は確認されませんでした。

以 上

\* 1 : 制御棒駆動機構ハウジング

制御棒駆動機構が納められている筒

\* 2 : スタブチューブ

ハウジングを原子炉圧力容器に固定するための継手

\* 3 : 応力改善作業

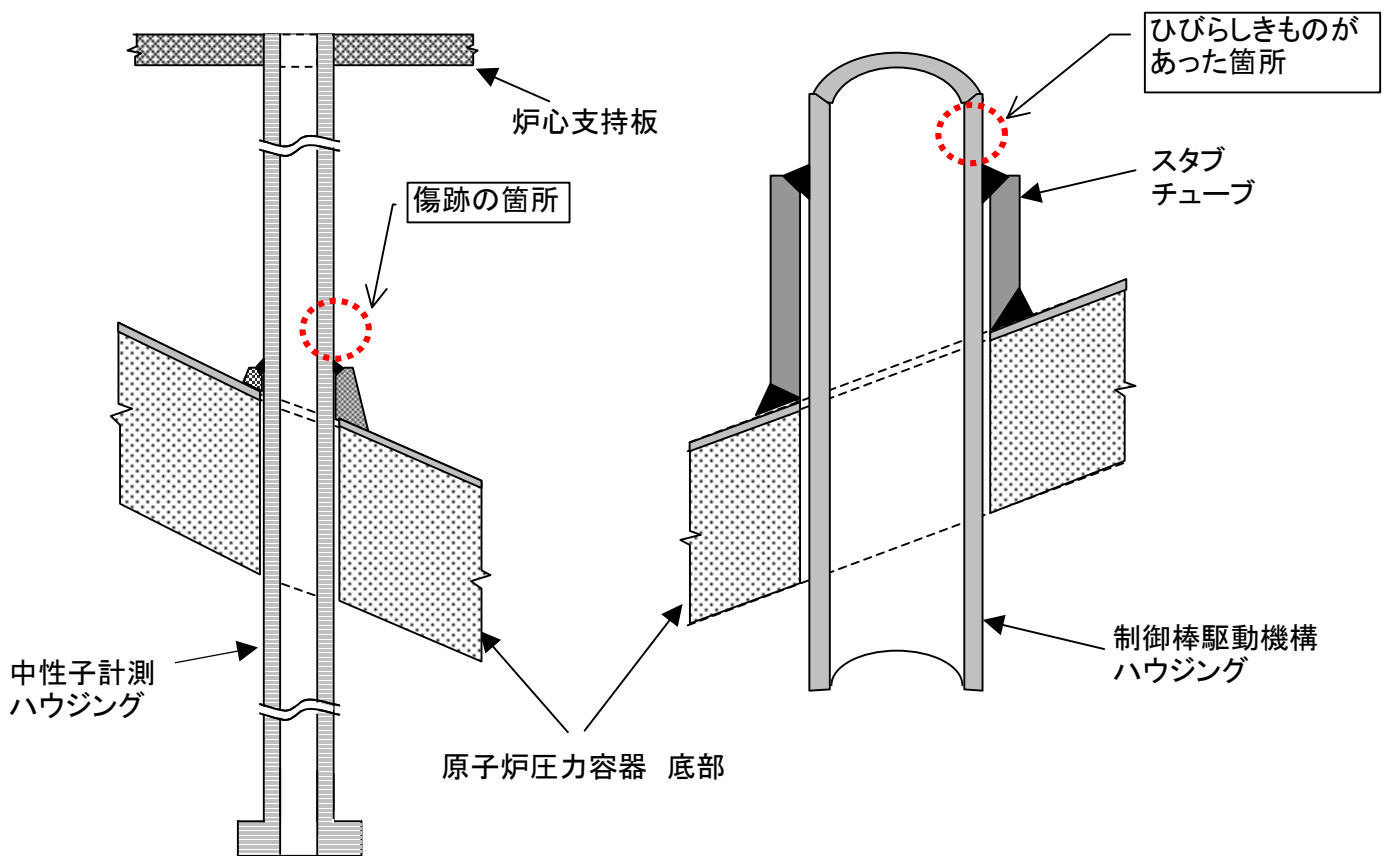
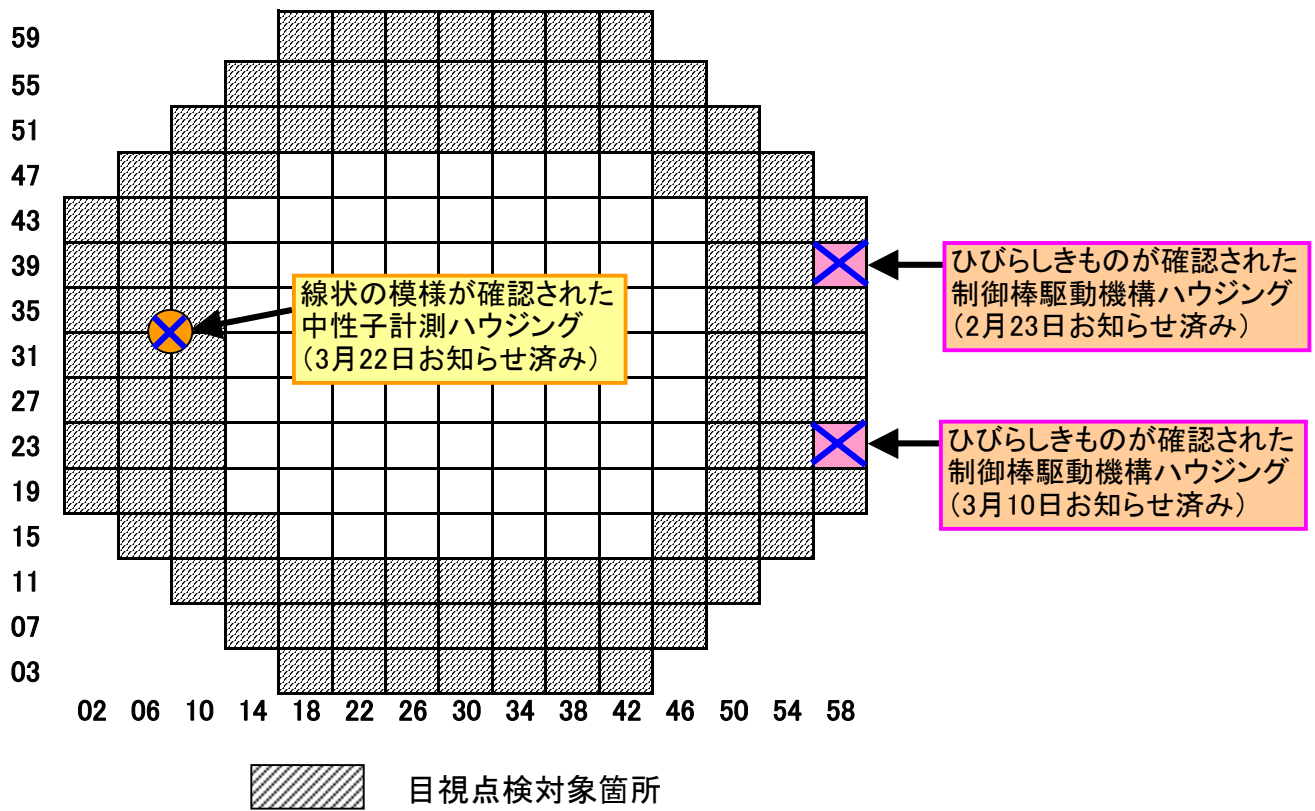
制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブ溶接部の応力腐食割れ予防保全の観点から、溶接部近傍に残っている応力（引張る力）を改善するための作業

\* 4 : 中性子計測ハウジング

原子炉内の中性子量を計測する装置が納められている筒

\* 5 : クラッド

配管の鋼材から発生する鉄サビ等の金属不純物



制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブ点検対象箇所図